いよいよ来年度に迫った長期実務実習

各大学で進む実習先との連携関係構築

来年度から始まる長期実務実習を前に、いよいよＣＢＴ、ＯＳＣＥという知識と技能・態度についての共用試験が行われる。共用試験、長期実務実習ともに薬学部教育制度上初めてのことであり、各大学では準備に奔走している。早い大学では12月初旬にはＯＳＣＥ、ＣＢＴも中旬から適宜スタートする模様。いずれも来年１月までに本試験を終え、落第者等に対しては２月、追・再試験の日程が組まれている。全国の薬系大学の学長、学部長の集まり「全国薬科大学長・学部長会議」の井上圭三会長（帝京大教授）に、長期実務実習に向けた現状と展望をうかがった。

全国薬科大学長・学部長会議会長、帝京大学薬学部長

井上　圭三氏に聞く

各大学では、長期実務実習を実施するに当たっての実施体制など、“実施計画書”を文部科学省に提出し、共用試験後の本番に備えている。本番では事前準備が重要で、特に実習先と大学側との連携が最大の課題といえる。文部科学省からも、非常に具体的な連携体制の構築が求められている。

これについて、井上氏は「もし学生が200人いるとすれば、原則、１薬局当たり学生１人の割り当てであり、単純に200薬局との連携を考えなければなりません」という。現在、担当教官が１人の学生に対し、３回は現場に出向くことが望ましい――とされ、200人の学生がいれば、延べ600回の訪問が必要となり、教官の人員が限られた中では、非現実的との指摘もある。

また、薬局の場合「通常は病院・薬局実務実習調整機構を介して実習先が決定されるので、事前に実習薬局、指導薬剤師とコンタクトをとることは物理的に不可能。前もって準備することが難しい」と話す。

長期実務実習を行う上で、実習先と大学側（学生）とのマッチングを行う必要性から、特に薬局実習については基本的に、この公的組織が一括して差配することとなってる。

ただ、この方式では毎年、実習先の病院、薬局が変わってしまう。井上氏は「真の連携には、ある程度気心が知れた関係が必要。今後検討されていく」とし、マッチングの仕組みは当面の検討課題だ。

十分な連携を図る上で、大学側のマンパワーは課題だ。現在、ITを活用した連携支援ツールの開発・導入も検討されているという。いずれにしても実質的な連携の実現に向け、各大学では対応策の構築に苦労しているようだ。

厳密なＣＢＴ実施で信頼性確保

初めての実施で手探りだった共用試験も、現実的な段階を迎えた。とはいえ、解決すべき課題も多い。ＣＢＴは４年間の学習・知識の総まとめを行うものだが、既に卒業した４年制４年生でのトライアル結果をもとに、試験内容が決められた。そのため若干、難しい可能性はあるという。

ＣＢＴの実施時期は各大学の事情によるが、早ければ12月中旬には始まる予定だ。その際、「60％以上を正解すると合格」という基準が設けられ、これを遵守することが大学間で確認されている。

ただし、結果として60％に達しない学生が非常に多いという状況が、起きないとも限らない。井上氏は「本来、ＣＢＴというものは特別な勉強をしなくても受かる試験のはず」と指摘するが、担当の薬学共用試験センターでは、その「適正な難易度」をめぐって頭を悩ませているという。

ともかく、初回ということで、来年１月末には本試験を終え、臨時に全国薬科大学長・学部長会議を開き、問題があれば全体として対処していくことになっている。

なお、試験結果は公表されることになっているが、実は先行する医学部や歯学部では公表されていない。その意味では薬学の共用試験は本来あるべき姿であると評価される。６年制を機に、他学部と比べても、非常に厳密に行おうとしている姿勢の表れともいえよう。結果的には、わが国の薬学教育に対する社会的な信頼性向上にもつながるといえよう。

一方、薬大の新設などを受け、将来薬剤師が供給過剰になるとの指摘があるが、井上氏は「日本の医療保険制度は財源的にギリギリのところに来ている。今後はセルフメディケーションの必要性が高まり、ドラッグストアでの需要も高まってくる。製薬企業ではMR以外の職種として、今まで以上に臨床経験のある薬剤師に期待していると聞いている。必ずしも需要が崩れることはないと期待できる」と楽観視している。

ただし、「われわれ教員側も明確に、地域医療、在宅医療や緩和医療などに対応できる学生を育成する必要がある」と、決意を新たにした。

miki pharmacy
ミキ薬局
首都圏での店舗展開
東京都：17店舗　神奈川県：5店舗
埼玉県・千葉県・山梨県・栃木県：各1店舗
私たちと一緒に、
未来を描いてみませんか！

http://www.mikiblog.com/tabeshinbun/

http://www.miki.ne.jp

人と人とのコミュニケーションを育みたい。
そしてそれが大きな幹（ミキ）から伸びる枝葉のように、
未来に向かって広がってほしい。それが私たちの希いです。
株式会社 メディカルファーマシィー
人材開発部　saiyou@miki.ne.jp
本社：〒162-0056　東京都新宿区若松町9−12 KSビル 2F　TEL 03-5368-2011
設立/昭和54年2月　資本金/5,000万円　売上高/114億円　従業員数/250名（薬剤師167名）